ＳＵ講座：活動発表会　2023. 11. 8（水）天気:快晴

参加者：29 名＋会員 11 名、時間：9 時～12 時 30 分　　**甚左衛門の森の会**

里やまボランティア入門講座は緑を守るきっかけづくりとして行われているが、さらにいろいろなことを勉強したいということでステップアップ講座が開かれるようになり、① 森を整備するための木の伐りかたなど、② 森にかかわる法律や行政がどうなっているのか、③ 森の自然 森はどのように形成され、遷移はどのように起きるのかなどを取り上げてきた。これとは別に各会の会員は他の会が活動する森について活動報告書などでは知っているものの、実際に見に行く機会が殆どない。そこで各会の森がどのような活動を行っており、どのような課題があるのか知ってもらうため各森を訪れる企画が持ち上がり、第1回が 2011 月 7 月に八ヶ崎の森で開催された。その後、活動発表会とかステップアップ講座だの意味が不明だ、発表なんか嫌だとして開催を断る会があったり、共催団体の名称が一時的に変更になったりと多少の曲折があったものの昨年に続き今年も活動発表会が実施されることになった。秋晴れに恵まれ数十名の参加で行われた。 以下は配布資料ほか、発言をもとに筆者の個人的見解で再構成。

秋晴れの黄葉を背景に数十名の参加で開催された森の会の活動報告

●会員紹介など―

初めに代表の挨拶と会員紹介があった。「いい天気になりました。森の活動を紹介することになりました。2時間みっちり行います」。2016年の里やまボランティア講座14期生で立ち上げた会で所有者の屋号をとって「甚左衛門の森の会」として2017年から活動を始めた。発足時の平均年齢が 67 才で現在は 4 年が経過しているので70才を超えている。これまで男性ばかりだったのが今年に入り若い女性会員3名入ってきたので平均年齢は一気に下がった 立ち上がりが早かった会は平均80才前後で高齢化が進んでいる 。現在の会員は12名。虫好きの人、柏からの人、秋山の森が活動終了になって移ってきた人、6月に加入したばかりの人などなど。、、活動が始まって 2017年 、10月に里山応援団とゴミの清掃を行っていたとき2人がスズメバチに刺され1人はアナフィラキシーショックを起こし1週間の入院になった。森での作業の大変さを知ることになった出来事だった。 この時、救急車の手配を行おうとしたものの広い森の住所、目印が分からず混乱した。

●森の位置―

「甚左衛門の森」を含む一帯の森は全体で 2ha あり、「甚左衛門の森」は 0.9ha 、隣接する「小浜屋敷の森」は約 0.8ha 。2ha の中には部分的に何人かの地主さんが短冊状に入っている。森の南側は斜面でその向こうは市川市なので松戸市の最も南側に位置している。昔は薪炭林で入会地 村などの共同所有地で構成員は落葉、林産物を採取利用できる でもあった。松は戦争のとき用材や松根油を採ったので姿を消したという。

●台風被害―

ここは高台で市川市方向からの風の通り道になっており、2019 年の台風 15 号, 19 号で被害を受けた。折れた木は地主さんが伐倒したが枝葉は残されたままだったのでその処理が大変になった。また境界木が倒れるか分からないので地主さんが 10 本伐倒した。枝葉の処理は残され放置されていた。

●地権者—

後で分かったことだが、地権者は活動地の南側出入口からすぐ近くで「甚左衛門梨園」を営んでおり、今年は既に終了したもののナシを出荷、販売している。当日はカキなどが売られていた。広い庭の一角には母屋とは別に木造の清潔なトイレ棟があり活動日には許可を得て利用できるようだ。地権者は森の保全活動そのものにあまり興味ないらしく、その分、比較的、自由に活動が出来ている。ただし、大事なことは相談して決めているとのことだった。松戸里山応援団ではこれまで地権者の都合などで幾つかの森が皆伐 八ヶ崎、八幡腰 、活動終了 八幡腰、ほだし、秋山 になったほか、相続が発生したら返却を求められている森もある。

●植物—

戦後、サワラを用材として植林したので現在は 70 年生になるが、溝腐れ病があって手入れされないで放置されていた。その後、落葉樹 コナラ、クヌギ、イヌシデ 、常緑樹 スダジイ、アラカシ、ヒサカキ 、マダケ、下層植生

アオキ、ヤツデ、シュロ が生育するようになった。植生調査はメッシュを切って行おうとしたが現実的に無理で断念したという。こんな意見もあった、入ってきたときは藪状でどうなるのかと思った。大きなナナフシがいて、そのまましておいたほうがいいとも思った。ササを刈ったあとにキンランが出てきた。枯れ木で保護されていた。

●活動資金—

最初は資金がなくて里やま応援団から 10 万円を借りたことがあったが、現在まで 4 つの助成金等を得て資金的な問題はない。

⑴林野庁—森林・山村多面的機能発揮対策交付金—2017年からの4年間で約91万4千円を得た。本来は3年間交付だったものの台風被害があり1年の延長が認められた。この交付金は人工払いが認められる、領収書がいらない、翌年繰り越しができるなど使い勝手がよかった。

⑵松戸市市民活動助成金—

2018 年、2019 年の 2 年間で 20 万円の助成。これは書類づくりが大変だった。松戸市のスタートアップ助成の事業報告書の項目だけを以下一部抜粋 実際の報告書は細かく書かれており、確かに書類づくりの大変さがうかがわれる 。報告書は2冊 2019 年度 。「令和元年度実施分 2回目協働事業・市民活動助成事業 報告書」「令和元年度分協働事業 市民活動助成事業報告シート」「甚左衛門の森」保全育成事業 団体名 松戸里やま応援団 「甚左衛門の森の会」事業費 116,319 円、自己資金 16,319 円、助成金 100,000 円、令和元年度（2019 年度）事業の取り組み 報告 松戸市の残存森林の保全活動が当事業の主な目的である。松戸市みどりと花の課の支援を受け、松戸里やま応援団の1グループ組織として、高塚新田地区の森林にてボランティア活動を行っている。具体的な活動内容は雑草木の刈払い、立ち枯れ・倒壊木の片付け、遊歩道の設営・整備、

松戸里やま応援団
「甚左衛門の森の会」
（活動場所：千葉県松戸市）

活動タイプ			
里山	竹林	資源	機能
●	●		

活動の経緯

「甚左衛門の森の会」は、松戸市の残存森林の維持保全を目的として、平成 15 年に結成された「松戸里やま応援団」の 1 グループとして、平成 29 年に発足しました。活動地は、千葉県松戸市の高塚新田地区の一面 0.9ha で、針葉樹と落葉・常緑広葉樹の混交林で、一部マダケ林を交えた変化のある森です。この場所は、主要道路に面し、周囲に畑や民家が点在しています。景観保全、枯損木・風倒木の管理などの観点からも整備が必要と考え、松戸市や地権者とも協議をして、活動を進めていくことにしました。

※ 「松戸里やま応援団」では、市内 10 数か所の森でこうしたグループが活動を展開しており、ボランティア会員はおよそ 200 名にのぼります。

活動の内容

主な活動メンバー

活動地の入口

林野庁森林・山村多面的機能発揮 報告書一部抜粋

及び不法投棄された粗大ごみ、産廃ごみの回収・撤去などである。この活動により、樹木や生物の多様性の維持・回復をはかり、松戸市の自然環境の保全に寄与する。1 事業名称「甚左衛門の森」保全育成事業、2 実施主体 団 体 名: 松戸里やま応援団「甚左衛門の森の会」従事者数: 10名、団体概要: 松戸市内の森林保全を主な目的としてボランティア組織として平成 29 年 4 月に設立し、6 月から高塚新田地区の 甚左衛門の森 で活動を始めた。約 0.9ha の落葉・常緑混交林で一部マダケ林と変化のある森である。月 2 回の全員参加の定例活動にて雑草木・竹藪の刈払・伐採作業、立枯れ・倒木の除去、不法投棄されたごみの撤去の実施、植生の基礎調査と観察、遊歩道の整備等を実施している。事業の実施内容、森の保全活動、森の保全準備活動、広報活動、事業成果について、事業目的及び達成について、今後の事業展開、収支決算書、収支内訳書。

⑶みどりと花の基金助成金―毎年3万円。

(4) コープみらい地域クラブ補助金―5～6千円 年―上限20万円で毎年申請が必要。

(5) 会費など。

なお、1～3年間で100万円が支給された「花王・みんなの森づくり活動助成 スタートアップ 」は2006年～2011年にかけて囲い山の森、ほだしの森、しんやまの森、小浜の森が助成を受けている。現在は2年間、上限50万円 各年 で募集。

●会の運営―

ゴミ担当、写真担当はほぼ固定しているが副代表、会計、会計監査は持ち回りでやってきた。会の運営についてこのような意見があった。リーダーシップとフォロワーシップが大事。ただ単にリーダーの話を聞いているだけでなく、問題があれば指摘する。前提として信頼関係が必要。 フォロワーシップとはネットによるとリーダーと異なる意見を持った際に正確に伝えて議論を促す、仕事を積極的に引き受けるなど、自身の立場でできる積極的な行動とされる「令和元年度実施分 2回目 協働事業・市民活動助成事業 報告書」松戸市 の森の保全準備活動5月８日の項目には 2019 年度（令和1年度）の当森の活動方針案を協議

①基本方針は「焦らず、あわてず、ゆっくり、活動しながら見えてくるもの、全員の同意」が記されている。

●ナラ枯れ被害についてー

2020年にナラ枯れ被害を確認して以来、現在までコナラ 30 本、クヌギ 5～6 本、アラカシ1本の合計 37 本がナラ枯れ被害にあい、このうち21本を伐倒した。対策としてカシナガ対策用ネット、カシナガトラップ、カシナガホイホイの設置を行ってきた。終息時期については各林分で5年程度という識者の報告があり、来年2024年は甚左衛門の森でナラ枯れが始まって5年目に当たる。

(上左)コナラなどに大量穿孔しナラ枯れを起こす体長4～5.2mm のカシノナガキクイムシ、上右 甚左衛門の森でナラ枯れ起こしていたコナラ 2020 年 7 年 30 日

●不法投棄ゴミとの闘いー

配布資料によると活動開始の2017年から2023年途中までの7年間に不法投棄されたゴミは家電、粗大ごみ、自転車、ビン、缶など518個に上っている。特に南側案内板の下にゴミが捨てられるが、ここは道路に面して車の通行が少なく捨てられやすい場所になっている。東側出入り口でもゴミの散乱があった。対策として清掃、不法投棄禁止ポスター、2022年には監視カメラを設置したがあまり効果がなかった。ダミーの監視カメラをもっと増やすこと

も考えている。ゴミネットに代えてフェンスを設置したところでは明らかに捨てられることがなくなった。

上右：南側出入口側から西側を望む。車の通行が少なく夜間は不法投棄に狙われやすい。他の会では投棄物の名前から警察に介入してもらい投棄者に回収させたことがある。

左上：活動開始の2017年に行われた南側出入り口のゴミ掃除の現場。マットレス、家電ほかこの年は104個の不法投棄物が回収された。2名がハチ被害を受けた。

左下：森を周回する途中、急斜面から南側出入り口に降り不法投棄防止、防犯カメラ作動中の看板を見る参加者。崖下は降雨があると湿地になるが現在は水枯れ。湿地植物整備事業を予定。

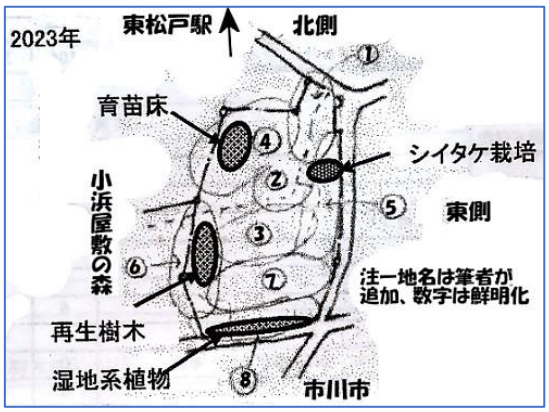
●甚左衛門の森のゾーニングと達成度―

甚左衛門の森の会では活動3年目 2019年 に活動地を8区域にゾーニングして整備案をつくり 次頁 、7年目 2023年 には達成度を評価するとともに、台風の被害を受け整備案を一部変更した。①出入口周辺、②拠点広場、③中央広場、④北側・西側隣地周辺、⑤東側側道路沿い、⑥西側小浜の森境界、⑦南側急斜面、⑧南側道路沿いの湿地。

●シジュウカラの観察報告―

2020 年から 22 年にかけて 20～30m 間隔で4個の巣箱を設置した。ビデオ撮影で観察を続けたところ、今年、1個で営巣が確認され4月から5月に雛への餌やり、糞だしがみられた。巣立ちを実際に確かめられてないが、映像では巣に姿がなくなっていることから5月中旬に巣立っていったものと判断したという。

写真などを使ってシジュウカラの観察報告をする会員



市街地でも普通のシジュウカラ2010 年1月スズメと同じ大きさ

●昆虫の繁殖事業―

配布資料にそって一通りの説明が終わったあと、森の中を見学することになった。昆虫の飼育場所では数段の棚に餌などが入ったタッパー容器が幾つも重ねられていた。カミキリムシを中心に林内に生息している昆虫の繁殖を行っている。野外のカミキリムシは同じ場所に長くいることがなく姿を消してしまうとのこと。別の場所で説明を受けることになるカブトムシの繁殖では2つの繁殖箱が設けられて一つは空になっていた。今年は成虫の羽化に失敗したらしい。要因の一つにモグラの捕食が考えられたため空箱の底はモグラの侵入を防ぐ網が敷かれていた。付近の藪では成虫で越冬するチョウとイトトンボの仲間が観察された。

●**北西側の育苗床**—次に、北西側育苗床を訪れた。台風被害の後、高木が伐採されたため光が入るようになった草地状の場所でチョウが訪れる植物を植えている。ミカンはアゲハ、クロアゲハの幼虫の餌になる。フジバカマはアサギマダラが吸蜜にくる。チョウが来るような植物があれば提供していただきたい旨の要望があった。

●**3班に分かれて森を散策**—
その後、3班に分かれて森の中を歩くことになった。

3班に分かれて林内をめぐる一行

●**つる植物**—ツタは伐ってしまうが、特に形が特徴的なフジは残すようにしているという。林業で材木を採るわけではないので蔓が巻き付いたからと言って切ることはないという発言があった。蔓が取りついても樹木の樹冠部 光合成部分 を覆わなければ問題ないし、実際なかなか起きない。フジのような巻き付いて締め付ける蔓は樹木を枯死、倒木させることもあるが、その程度に育ったフジは吸蜜植物、景観植物として優れており伐るのではなく保護を検討してもいいように思う。蔓植物の多様性の維持、種の特性と周囲の状態から個々に判断されるべきだろう。

●**南側低地**—降雨があると水が溜まるが、湧水源はなく、現在は枯れて水がない。水が常に溜まっていれば水草の栽培、管理も考えられるが、そういう状態ではない。2023年の整備達成度は柵の新設とともに評価されなかった。達成度0%。

●**シイタケ栽培**—シイタケ栽培は必要ないという人と是非ともやりたいという人がいた。ナラ枯れしたコナラを玉切りにして菌を植えた。榾木を伏せて手をかけず放置状態にしていたところ、今年大きなシイタケが幾つも出てきた。場所がよかった、来年も期待できるという声が聞こえた。

●**集積した枯れ木処理**—集積されている枯木などは綺麗に片づけたい人と、残しておきたい人がいたようだ。枯れ木はうまくまとめて置けば隙間と湿気ができヘビ、カエル、土壌性動物が集まる場所になるが、生き物の視点でみる人とゴミとしてみる人では同じ物でも全く異なったものになってくる。助成活動報告書には活動を通じて「樹木や生物の多様性の維持・回復をはかる」と書かれている。ある小さな里やま応援団の森では人には嫌われる藪を切らずウグイスのために残していたことを思い出した。

3班に分かれて林内をめぐる一行

●終わりー「みっちり2時間」を超える森の活動紹介が終わり、暖かいコーヒータイムのあと三々五々に解散。準備などに尽力した甚左衛門の森の会の皆さんご苦労様。

カシナガ被害のコナラを玉切りして植菌。榾木を伏せて放置状態にしていたが、大きなシイタケが出てきた。

参加者に配られたドングリの笛。中がくり抜かれており頭を吹くといい音が出る。目と口を描いたのは愛嬌。

田村敏夫

松戸里やま応援団 「甚左衛門の森の会」 活動記録 定例 第 174 回

作成日：20231109　作成者：葛原

日時・天候	2023年11月8日(水) 9:00～12:30　快晴
活動内容	里やま応援団活動報告会 ①設立の経緯(金井)　②数値と資料に見る森の会の運営のヒストリー（徳地）③ナラ枯れ被害と対策(中村)　④不法投棄ゴミとの戦い（中村）⑤ゾーニングと方針（小松）⑥樹木探し迷路（海津）⑦シジュウカラ観察報告(館山) ⑧昆虫飼育と育苗園について（槻） 3班に分かれて森見学。コーヒーブレイクしながら意見交換の後解散。
参加者 11名	金井、海津、小松、櫛田、葛原、槻、下山田、館山、徳地、中村、米山

前々から準備を重ねて、当日を迎えました。

集合写真

事前のミーティング

床几席も用意し準備万端

29名の森のお仲間に集まっていただきました。

受付風景

開始待ち風景

全体説明（金井）

メンバーによる発表。ゲストの皆様も真剣に聞いてくださっていて、嬉しく思いました。ありがとうございます。

会の運営ヒストリー説明（徳地）

全員参加、シジュウカラの観察説明（舘山）

昆虫飼育の説明（槻）

顔ほどの大きさの椎茸にびっくり！
どんぐり笛、皆さん上手に吹かれててこれまたびっくり！鳥たちとコミュニケーション出来ていて羨ましく思いました。

巨大シイタケを収穫

お土産はクヌギのドングリ笛

育苗園説明（槻）

次回	**11月22日（水）10：00～11：30　作業終了後、小浜の森の会との合同芋煮会を予定。**